千葉県八千代市

平戸台遺跡ｃ地点

― 共同住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 ―

2017

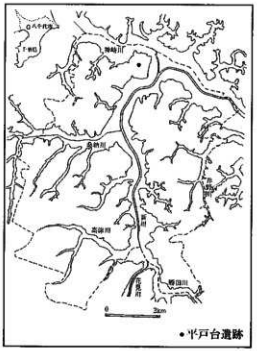
恩田　晃

八千代市教育委員会

千葉県八千代市

平戸台遺跡 c 地点

― 共同住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 ―



2017

恩田　晃

八千代市教育委員会

凡　　例

1　本書は，八千代市島田台字平戸台937－1に所在する平戸台遺跡c地点の発掘調査報告書である。
2　発掘調査は，確認調査を国庫・県費補助事業として，本調査については，民間開発等埋蔵文化財調査事業として，事業者より調査協力金を納付いただき，八千代市教育委員会の委託事業として実施した。
3　発掘調査・本整理作業は以下のとおりである。

調査

確認調査　期間　平成28年９月12日～９月26日　面積　375㎡/3,439㎡　担当　森　竜哉

本調査　期間　平成28年12月６日～12月９日　面積　16㎡　担当　森

整理

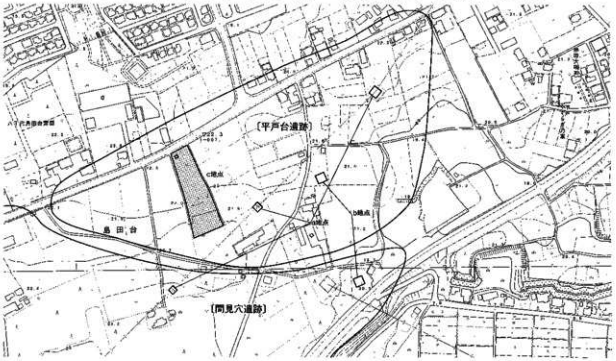
図版作成・執筆　　期間　平成29年１月13日～平成29年３月15日　担当　森

4　本書の編集・執筆は，森がおこなった。
5　現場の遺構，遺物及び報告書掲載の遺物写真は森が撮影した。
6　本書の作成・刊行については，整理補助員と森が協力して行い，森が統括した。
7　出土遺物，実測図等の資料は，八千代市教育委員会が保管している。
8　本書の遺構番号は，発掘調査時の番号を使用している。
9　遺構・遺物の縮尺は個々の挿図に記載した。
10　本書使用の地形図は，下記のとおりである。
　第１図　八千代市発行　1/2,500八千代都市計画基本図
11　発掘調査から整理作業において下記の諸氏・機関にご指導，ご協力いただきました。記して感謝いたします。（敬称略）
　恩田　晃　大東建託株式会社　千葉県教育庁文化財課

本　文・挿　図・図　版　目　次

凡　例
目　次
第１章　調査に至る経緯・経過及び遺跡の概要　1
第２章　検出された遺構と遺物　2
第３章　まとめ　5
挿　図
第１図　平戸台遺跡の範囲　1
第２図　調査地点　1
第３図　01Ｐ遺構実測図　2
第４図　01Ｐ出土遺物（1）　3
第５図　01Ｐ出土遺物（2）　4
図　版
図版１遺構
報告書抄録

第１章　調査に至る経緯・経過及び遺跡の概要

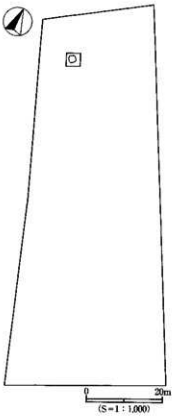


第１図　平戸台遺跡の範囲（S＝1：5,000）

調査に至る経緯　詳細は市内遺跡発掘調査報告に譲るが，平成28年４月，恩田　晃氏から今回調査を実施した土地を含む範囲について，共同住宅の建設を予定する旨で「埋蔵文化財の取扱いについて（確認）」の文書が八千代市教育委員会に提出された。確認地は市遺跡No.25平戸台遺跡の範囲内である等の判断から，同年９月に確認調査を実施した。その結果土坑１基が検出され，その後の協議により記録保存の措置をとることとなり，協定書・委託契約書の締結等諸準備が整った平成28年12月本調査に着手した。

経過及び遺跡の概要　12月６日プラン確定後，半載し遺構の掘り下げに移行した。遺物量が著しく多いため，トータルステーションによる取り上げは半載底面までの掘り下げ完了後，上層・中層・下層に分けて行った。８日半載完了・セクション実測，９日完掘後平面図を作成し，埋戻しを行った。

本遺跡の調査経歴は２回あり，いずれも送電鉄塔建設に係るものでa地点においては，昭和53年11月調査が実施された。遺構・遺物は発見されなかった。b地点は昭和55年９月調査が行われ，縄文時代土坑１基，竪穴住居跡５軒（古墳時代前期２軒・同後期１軒・時期不明２軒）等が発見された。遺物は縄文土器（早期・前期・中期），土師器・須恵器，石製模造品，土玉等が出土している。



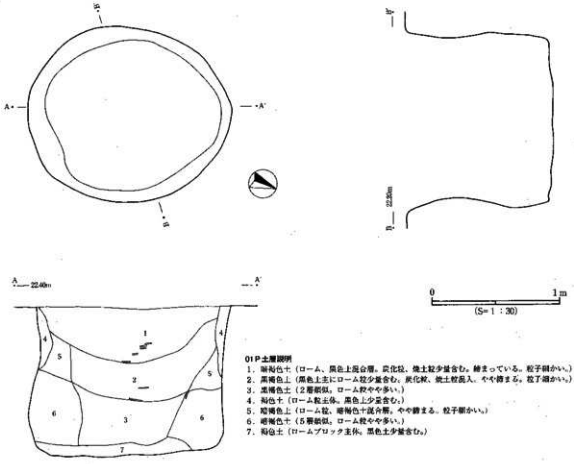
第２図　調査地点

参考文献

1980　八千代市遺跡調査会　船橋市遺跡調査会「東京電力送電鉄塔建設事業に伴う発掘調査報告書」

1982　千葉県教育庁文化課「千葉県埋蔵文化財発掘調査抄報」－昭和55年度－

第２章　検出された遺構と遺物



第３図　01Ｐ遺構実測図

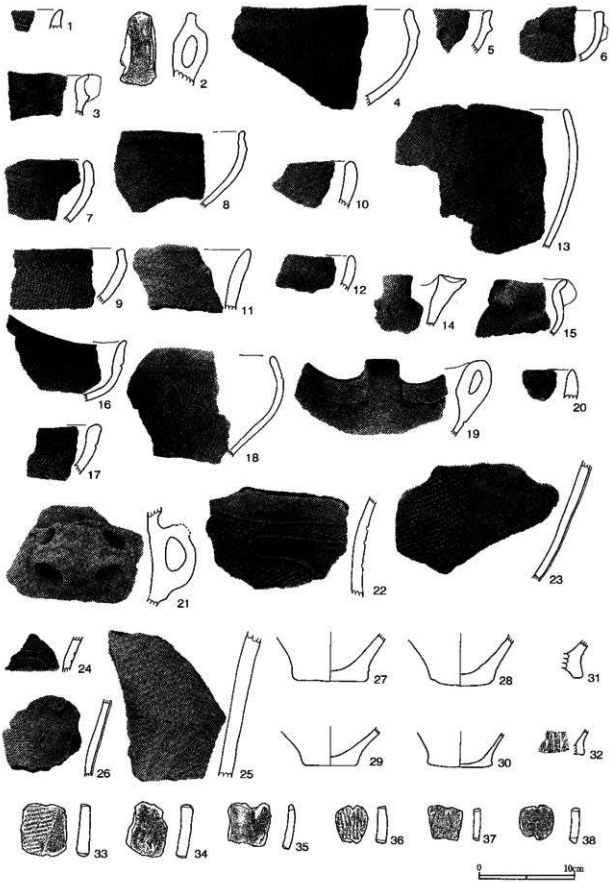
今回の調査では，事業地全体においても，縄文時代中期末葉（加曽利Ｅ式）の土坑１基のみの検出で他の遺構は発見されていない。表採遺物については，土坑周辺に縄文土器，南側で縄文土器・土師器・須恵器（奈良・平安時代）の出土が偏在してみられる。周辺ではｂ地点の北側調査区において，同時期の土坑が検出され，土坑内から多量の土器片が出土している。

01Ｐ（第３図　図版１）

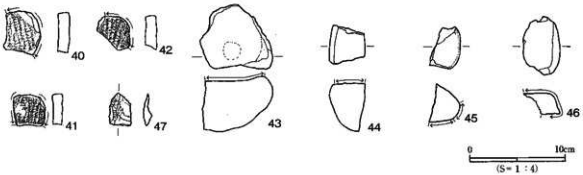
確認面のⅢ層上面において，明確なプランを確定した。平面形は1.55m×1.4mのややいびつな円形で，深さ1.15mである。壁面は中場下位でオーバーハングし，中場から上位で内傾したのち直立している。底面は中央から壁面にかけてやや高くなっている。底面と壁面の立ち上がりは明瞭ではない。覆土は，暗褐色土～黒褐色土系の１．２．３層と暗褐色土系の５．６層に大別される。土層断面の観察からは，５．６層を切るように１～３層が掘り込まれている。１～６層とも粒子は細かく，やや締まった土層である。このことから，当初掘り込まれ埋め戻されたか埋まったのち，時間がそう経過しない段階で掘り返されたとの想定が可能である。また，１～３層中には焼土粒，炭化粒が含まれる。さらに，底面から20cm上の壁面において，10cm円形の焼土を検出している。人為的行為が想定される。

01Ｐ出土遺物（第４図．５図）

土坑内の遺物点数は，破片総数512点，重量は13,225ｇの出土量である。完形土器はない。破片の部位で分類した結果，口縁部38個体2,310ｇ，胴部片では縄文施文4,500ｇ・縄文＋沈線600ｇ・縄文＋微隆起帯1,800ｇ・無文1,000ｇ，底部11点930ｇとなっている。その他土器片錘６点160ｇ，磨耗痕ある土器片３点



第4図　01P出土遺物（1）



第５図　01Ｐ出土遺物（２）

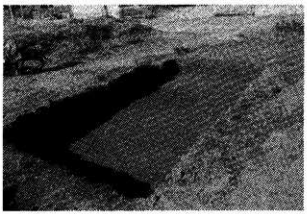
50ｇ，石器片７点625ｇ等が出土している。

遺物の取り上げは上層，中層，下層として，便宜的に確認面～－35ｃｍ（１層下部），－35ｃｍ～－75ｃｍ（２層下部），－75ｃｍ～－105ｃｍ（３層下部），底面（７層中）の各層一括でおこなった。上層からは82点，中層168点，下層72点，底面21点で中層からの出土が比較的多い。

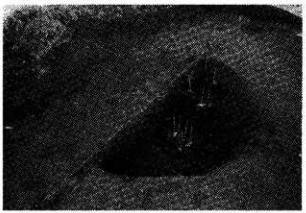
遺物の出土状況は，確認面から下層まで比較的間断なく出土している。完形品は，土器片錘を除いて皆無である。出土品が土器の口縁部，胴部，底部，石器片・土製品など種類が多様である点は，特記されるものである。

１～20は口縁部で，１は阿玉台式の混入遺物である。２は把手部分で下部に縄文が施文される。３～９は微隆起帯で構成されるもので，３は無文帯に小突起が付き，下部に縄文施文する。４は微隆起帯下に単節縄文，５は内削ぎ状の口唇部で，横位の微隆起帯，６は角頭状の口縁部で微隆起帯下に縄文施文，７～９は無文帯に横位の微隆起帯・縄文施文している。10.11は無文の口縁部，12.13は遺存部において縄文施文のみである。14.15は突起部下に沈線・縄文・刺突文を施文するものである。16は波状口縁で，沈線内を磨り消し，縄文施文している。17は緩い波状口縁下に沈線・縄文を施文する。18.19は同一個体である。口縁部は無文帯下に横位の沈線を巡らし，把手部分を頂点に緩い波状としている。胴部は磨消無文帯による逆Ｕ字状ないし蕨手状の文様を描出している。20は細条線を格子状に施文する。21～26は胴部片で，21は大型個体となるもので，４孔のこぶし状の把手に蕨手状の文様がみられる。22は口縁部下の胴部破片で，横位沈線下に縄文，磨消無文帯による文様を描出する。23は縦位の微隆起帯と縄文を施文する。24は無文帯を沈線で区画し，縄文を施文している。25はくずれた微隆起帯と縄文施文，26も縦位の微隆起帯と縄文を施文している。27～32は底部を一括した。27は底径7.5ｃｍ，遺存高5.1ｃｍ，確認面に近い上層から出土している。28は底径6.7ｃｍ，遺存高5.5ｃｍで底部立ち上がりは丸みがあり明瞭ではない。下層からの出土。29は底径5.4ｃｍ，遺存高4.0ｃｍで中層出土。30は底径6.8ｃｍ，遺存高3.7ｃｍで胴部下半の器壁は非常に薄い。中層出土。31は上げ底で下層からの出土である。32は混入遺物で，波状貝殻文を施文する。33～38は土器片錘を一括した。33は長辺5.5ｃｍ・短辺4.7ｃｍ，44.8ｇ下層出土。34は長辺5.6ｃｍ・短辺4.0ｃｍ，36.0ｇ下層出土。35は4.5ｃｍの四角形で，23.3ｇ上層出土。36は長辺3.9ｃｍ・短辺3.4ｃｍ，14.9ｇ中層出土。37は3.3ｃｍの四角形で，12.4ｇ下層出土。38は3.6ｃｍの円形で，12.9ｇ中層出土。層位はまちまちである。40～42は磨耗痕ある土器片を一括した。40は長辺4.2ｃｍ，23.7ｇ中層出土。41は3.2ｃｍの四角形で，３辺において磨られている。12.8ｇ中層出土。42は遺存長3.5ｃｍ，12.3ｇ中層出土。43～47は石器片を一括した。43は石皿片を，叩石として再利用しているもので364.6ｇ下層出土。44も石皿片を磨石・叩石として再利用している。82.2ｇ表採。45は磨石片である。63.2ｇ下層出土。46は凝灰岩状軟石で，３面において平らに磨られている。40.2ｇ下層出土。47は黒曜石の剥片で，6.1ｇ上層出土。

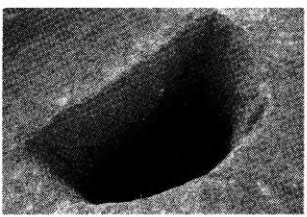
図版１遺構



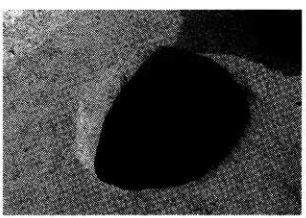
プラン確認状況



遺物出土状況



土層堆積状況



完　掘

第３章　まとめ

今回の調査においては，縄文時代中期末葉（加曽利Ｅ式）の土坑１基を発見した。先述したように，ｂ地点北側調査区においても，加曽利Ｅ式期の土坑１基が検出されている。また，ｂ地点南側調査区では，当該時期の遺構は未検出にも関わらず，天箱１／２程度の加曽利Ｅ式土器片が出土している。

土坑の性格については，市内桑納地区の桑納前畑遺跡ｂ地点において，同形態，埋積土の状態，出土遺物の特徴からその一部について「墓坑」と想定している。また，同時期の土坑が多く検出されている成田市長田雉子ケ原遺跡・長田香花田遺跡の事例においては，担当者は，完形深鉢土器の出土状態から「墓坑」と想定している１例のほかは，断定はしていないものの「貯蔵施設」を想定している。さらに集落内の土坑分布から，住居との空間利用の違いに言及している。

本遺跡での事例については，特殊遺物や完形深鉢土器の出土は見られず，「墓坑」としての性格は想定しがたい。また，土層断面の観察から，時期を隔てずに掘り返された状態が看取される。さらに，出土遺物は土器片・石器片・土器片錘等の生活生産用具類の意図的構成をもった遺物群であり，それらを投棄（または廃棄）したものと考えられないであろうか。ここには縄文人の祭事的行為がうかがえるものと考えている。

参考文献

1989　財団法人印旛郡市文化財センター「千葉県成田市長田雉子ケ原遺跡・長田香花田遺跡」ｐ430参照

2010　八千代市教育委員会「千葉県八千代市桑納前畑遺跡ｂ地点発掘調査報告書」

報 告 書 抄 録

ふりがな	ちばけんやちよし　ひらとだいいせきしーちてん
書名	千葉県八千代市平戸台遺跡ｃ地点
副書名	共同住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
編著者名	森　竜哉
編集機関	八千代市教育委員会
所在地	〒276-0045　千葉県八千代市大和田138番地２　TEL 047（483）1151代表
発行年月日	平成29年３月15日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所　在　地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ひらとだいいせきｃちてん 平戸台遺跡ｃ地点	しばだいたおだひらとだい 島田台字平戸台937-1	12221	25	35度 46分 16秒	140度 6分 21秒	20161206 ～ 20161209	上層16	共同住宅建設

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
平戸台遺跡ｃ地点	包蔵地	縄文時代	縄文時代中期土坑１基	縄文土器（中期），石器，土製品	
要　約	本遺跡の調査においては，縄文時代中期末葉の土坑１基が検出された。これまでの他地点での調査においても，当該期の遺構・遺物が検出されており，遺構が散在する本遺跡の土地利用が，部分的ではあるが明らかとなった。 土坑からは，上層～下層において多量の土器等が出土した。種類も多岐にわたり，生活生産用具を主体としている。遺構には，掘り返しがみられ，土器等の廃棄ないし投棄にかかる祭事が行われたことが想定される。				

千葉県八千代市

平戸台遺跡ｃ地点

― 共同住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 ―

発　行　日　　平成29年３月15日

編　　集　　八千代市教育委員会　教育総務課

〒276-0045　八千代市大和田138-2

TEL　047-483-1151（代表）

発　　行　　恩田　晃

印　　刷　　金子印刷企画